第四回　家村中佐の兵法講座

平成二十四年六月十六日

虚実篇

空虚と充実　【闘戦経】第五三章　用兵の神妙は虚無に堕ちざるなり（一八七頁）

一　善く戦う者は、人を致して人に致されず。

人を致す　＝　相手の行動を自在に操る（主動）　―　先手　―　余裕＝佚す

人に致される＝　相手の思いどおりにされる（受動）　―　後手　―　焦り＝労す

《竹簡本》

敵佚すれば能くこれを労し、飽けば能くこれを飢えしむる者は、其の必ず趨く所に出づればなり。

安んずれば能くこれを動かす　・・・　揺さぶり戦法

【楠流兵法】　翳眼（えいがん）に有れば天地窄(すぼ)り、一歩度を失すれば千里差ふ。我れまた敵の為めに致されざらん。（河陽兵庫之記　四　致人）

二　攻めて必ず取る者は、其の守らざる所を攻むればなり。

三　進みて禦ぐ（迎う）べからざる者は、その虚を衝けばなり。（竹簡本・・・遭遇戦）

其の之く所を乖（そむ）く＝　敵に疑念を起こさせる　→　攻撃を躊躇させる（惑わせる）

其の之く所を膠（あざむ）く＝敵を詐り欺く（はぐらかす）　→　判断を誤らせる

四　人を形せしめて我に形無ければ、則ち我は専まりて敵は分かる。・・・集中と分散

①　虚と実のかけひきで敵を惑わし、多くの場所（戦場）に分散配置させる

②　我は全戦力を一つの場所（戦場）に集中する

則ち我は衆くして敵は寡なきなり。能く衆きを以て寡なきを撃てば、則ち吾が与に戦う所の者は約なり。（戦場）

《竹簡本》　我は寡なくして敵は衆きときは、能く寡なきを以て衆きを撃つ者は、則ち吾が与に戦う所の者は約なればなり。（戦域＝複数の戦場を含む広域）

特定の戦場（決戦場）における相対的な戦力優越の確保

①　敵の態勢を明確に把握　←→　我の態勢を徹底的に秘匿

②　戦いの時期と場所を主動的に決定（計画的に準備）

③　急速な兵力の集中（相対的な運動力の優越・・・陽動作戦、欺騙行動など）

五　これを策り④（計り①）て得失の計を知り、これを作し③（蹟け②）て動静の理を知り、これを形し③て死生の地を知り、之に角れ⑤て有余不足の処を知る。（……は、竹簡本）

敵情解明のプロセス

① 敵の特質の把握（計る）　…　五事七計

② 敵の基本的な行動パターンの把握（蹟ける）…これまでの行動から一定の規則性を発見

③ 隠密偵察による情報収集（作す・形す）　…　敵の態勢と地形上の利・不利を解明

④ 敵の企図と行動を推察（策る）　…　敵は「何のため、何を、いかにしてするか。」を考察

⑤ 威力偵察による情報収集（角れる）　…　前衛などが敵と接触（軽く交戦）　→　敵の配備、特にその弱点を解明　→　必要に応じ、⑤から④にフィードバック

六　兵を形すの極は、無形に至る。

形兵＝或いは虚を示し、或いは実を示して敵の視聴を撹乱させ、我の真の形（態勢）を捕捉させない　→　敵を虚に陥らせる

無形＝敵から我を認識できないこと…究極の形兵が無形

形に因りて勝を衆に錯くも、衆は知ること能わず。

我が勝の形＝決戦場における最終態勢

吾が勝を制する所以の形＝戦域全般の態勢

一形の勝を以て、万形に勝たんとするは、不可なり　（孫臏兵法　奇正篇）

七　兵の形は実を避けて虚を撃つ。・・・兵は敵に因りて勝を制す。

兵に常勢なく、常形なし。

《竹簡本》　能く敵に与（したが）いて化するは、之れを神と謂う。

五行に常勝なく、四時に常位なく、日に短長あり、月に死生あり。

陰陽五行説・・・木・火・土・水・金の相勝説

天地自然の運行　←　太陽と天体の動き・・・全ては、その中心にある太陽の影響を受ける

【闘戦経】　常変・変常の理

第二八章　鋭気は人の根本（一一一頁）　・・・火＝太陽の精、元神の鋭

光と熱＝生命のエネルギー源

第三四章　物事の本質を知る（一三〇頁）　・・・変の常たるを知り、怪の物たるを知る

→　天地自然の理＝生成発展の理念

第五一章　天道に違うべからず（一八二頁）・・・不動の本心

大宇宙の法則＝不変にしていささかの錯誤もなし

軍争篇　敵と我が相対して先制・主動の利を争うための戦術・戦法を説くもの

一　迂を以て直と為し、患を以て利と為す。

迂直の計＝不利を有利に転ずる

① 我は、敵よりも廻り道を進む、または敵よりも出発が遅くなる

パターンⅠ・・・② 敵を利益でつって遅らせ、かつ我の速度を速める

③ 予定した戦場に、我が敵より先に到着する

パターンⅡ・・・② 敵を利益でつって我の方向に誘い出す

③ 我に近い新たな戦場に敵より先に到着する

甲を巻きて趨り、日夜処らず・・・

（戦例）　羽柴秀吉　備中高松城から山崎へまで、七日間で一八〇キロの機動

二　山林・険阻・沮沢の形を知らざる者は、軍を行（や）ること能わず

三　兵は詐を以て立ち、利を以て動き、分合を以て変を為す者なり。

敵の裏をかく＝①敵をして虚実を誤認せしめ、②我の動静を虚実の計により知らしめず

利・不利を見積りはかる → 利を最大に、不利を最小にする

分散と集中により態勢を変化 → 実を避けて虚を撃つ　（鳥雲）

郷を掠むるには衆を分ち、・・・ ←→ 嚮うところを指すに衆を分かち、・・・《竹簡本》

四　金鼓・旌旗なる者は人の耳目を一にする所以なり。（衆を用うるの法）

【闘戦経】　第二三章　呉子は概ね常道を説く

三軍には気を奪うべく、将軍には心を奪うべし。

士卒の行動力と将軍の統率力の源泉を断つ

其の鋭気を避けて其の惰帰を撃つ。（気を治むる者）

治を以て乱を待ち、静を以て譁を待つ。（心を治むる者）

近きを以て遠きを待ち、佚を以て労を待ち、飽を以て飢を待つ。（力を治むる者）

正々の旗を邀うること無く、堂々の陳を撃つこと勿し。（変を治むる者）

【闘戦経】　「気力の充実」と「燃える闘志」 → 心と気を奪われない

第十四章　最期まで意気盛んであれ（六九頁）

第十八章　鋭気と威厳（兵者は稜を用ふ）（八一頁）

第二六章　一心と一気こそが勝利の根本（一〇五頁）

第四七章　勝敗は神気の張弛による（一七〇頁）